

やまがた避難者支援協働ネットワーク意見交換会について 概要（結果報告）

例年実施している意見交換会を、下記のとおり開催した。

日 時	令和5年10月13日（金）13：00～15：00
場 所	山形市男女共同参画センター「ファーラ」 研修室2・視聴覚室 (山形市城西町二丁目2番22号)
出席者	やまがた避難者支援協働ネットワーク会員 16団体28名

○ 全体テーマ 「地域資源を活用した避難者支援について考える」

○ 情報提供

テーマ 「社会福祉協議会における内部連携・地域協働～鶴岡市社協の取り組み～」

情報提供者 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会 地域福祉課おだがいさま推進係

係長 渡部 和樹 氏

内容

- ・鶴岡市社会福祉協議会では、市の関係部署や支援団体等、様々な団体と対等な関係を築きながら避難者の生活支援を展開してきた。
- ・「ひきこもり」や「孤立」といった課題は避難者特有ではなく誰もが抱え得る課題である。生活支援相談員による避難者個人に対する相談支援と同時に、地域のつながりや支援者・住民等との関係構築、生きがいや希望を見出す等の支援が求められている。
- ・震災から12年経ち、「避難者」は地域で暮らす「生活者」となっている。社会福祉協議会は、生活支援相談員と共に、地域の方々と一緒に、ひいては市全体で支援できるネットワークを築けるよう活動していく。

○ 意見交換

全体テーマについて、出席者が5グループに分かれて意見交換を実施した。

【意見交換会で出された主な意見】

- ・避難者が抱える課題は、高齢独居、子どもの進学、健康面の不安等、震災から年月が経ったことによって避難者特有ではない一般的な課題のほうが多くなっている。今後もそのような問題が増えることを想定し、ニーズに合った支援をしていかなければいけない。
- ・複合的な課題を抱える世帯もあり、1つの団体では解決できない問題のほうが多いため、様々な関係機関を巻き込んで対応していく必要がある。課題が生じた際に迅速に対応できるよう、関係機関や相談窓口を知っておくことが重要。
- ・異動してきた行政職員や今まで避難者支援に関わってこなかった団体など、避難者支援の状況が分かっていない方もいる。協力を断られても根気強く説得すること、情報共有を図ること、避難者の立場にたって対応を考えることが必要である。
- ・普段から支援団体間で訪問し合い、情報共有を通して顔の見える関係を築きたい。そういったつながりが緊急時の初動対応にも役立つのではないか。

以上